

2026年2月号
日本基督教団堺教会
NO.564 教会学校



いずみのひろば

「ソロモン王の感謝の祈り」

列王記上8:22-30

今年度は去年の5月から、アダムさんとイブさん、ノアさん、アブラハムさん、ヤコブさん、モーゼさん、ヨシユアさん、ダビデさんが登場しました。

ダビデさんは紀元前1004年からイスラエル統一王国2代目の王を務めた人です。紀元前1004年というのはキリストイエス様が誕生する1000年ほど前のことです。今は西暦2026年ですので、およそ3000年程前の出来事になります。

今日は先週に続いてソロモンさんのお話です。ソロモンさんは、ダビデさんの子どもで、イスラエルの3代目の王です。神様からの贈りに「民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください。」とお願ひし、そのことを喜ばれた神様は、ソロモンさんに聞き分ける心をお与えになりました。二人のお母さんが赤ちやんを取り替いするできごとが起りましたが、見事に道筋を立てたことは先週のお話でした。

ソロモンさんは、イスラエルに神殿を造りました。興行が27m (25メートル)の長さを感じ浮かべるとわかりやすいでしょう。間口が9m、高さが14mの大きな神殿で、造るのに7年をかけました。

神殿造りは、神様のために造ろうとお父さんの時代からの願ひ事でした。神様も神殿を造るのは、ダビデさんではなく、ソロモンさんであると仰っていました。

神殿を造り終えたソロモンさんは、神様に祈りました。「あなたのお父さんのダビデさんとの約束を守って、神殿造りを完成させて下さいました。ありがとうございます。これからも神様が、ダビデさんに約束されたことを守り続けて下さい。あなたはこの神殿にお住まいになるでしょうか。この広々いお室にも入ってもらうことができますくらいあなたは大きい存在です。どうかあなたがいらつしやる笑から地上のことをお聴きになって、私たちの罪を赦して下さい。」と神様にお祈りしたのです。神様がモーゼさんに命じたエジプト脱出からおよそ300年の神さまの導きに感謝の祈りを献げるソロモンさんがそこにありました。

さて、そのソロモンさんのことに触れているイエス様の言葉を聴いてみましょう。ルカによる福音書12章26節からです。「野原の花がどのように青つのかを考えてみなさい。働きもせず朽ちない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。ましてあなたがたにはなおさらのことである。」

イスラエルの3代目の王になり念願の神殿を造り、大いなる知恵でもって国を治めたソロモンさんよりも、野原の花が美しく、そして、さらに私たちもそれに劣らないと仰っているのです。

私は山登りが好きで、2000mを超える高い山に登ることがあります。高山植物といって木々が育たないような薬いところで生きる植物があります。足を滑らせると落ちてしまいそうな岩場を登りながら、ふと目の前に高山植物のきれいな花に出会うときがあります。こんな厳しいところでよく咲いているなあとびつくりすることがあります。

このお花は、人にきれいだなど観て貰うために高い山で咲いているのではなく、神様に祝されてそこで咲いているんだと思わされています。イエス様はその美しさは榮華を極めたソロモンさんを超えると、そして私たちはそれに劣らないと仰っています。

私たちは幼稚園や学校の生活の中で、神様が喜ばれることができるという目があると思います。でも時には自分なんてどうしようもないなど惨めな思いをする目があるかもしれません。

でも安心してください。イエス様は、大いなる知恵でもって国を治めたソロモンさんよりも野原の花は美しく、さらに私たちも私たち一人一人が、それに劣らないと仰っているのです。

今日から始まる1週間、幼稚園や学校での私たちの毎日が、神様によって守られていることを信じて歩みましょう。

(おはなし 林 宏先生)